

5/17 (日) 高原山の安全を祈って

高原山釈迦ヶ岳（1,795m）の山頂にある高原山神社で、開山祭が行われました。開山祭は、夏期の登山シーズンを前に登山者の安全祈願や五穀豊穡などを祈って行われるものです。約80人の参加者は、大間々駐車場から約3時間30分かけて山頂まで登りました。

式の後には、お札が配られたほか、神酒などが振る舞われました。参加者からは「矢板市内の景色が一望できた」「途中で咲いているツツジがとてもきれいだった」などと話していました。



5/29 (金) 高校生と福祉

社会福祉協議会が進める「福祉のこころ育成事業」の推進校第1号として矢板高等学校が選ばれ、市役所で認定証の交付式が開催されました。この活動は、地域住民との交流を通し、福祉の理解を促進し、生徒たちが社会人となった際に、地域活動に活かしてもらおうと行われているものです。今後は、車いすが入れる施設などを紹介する福祉マップの作成や、児童館の食育普及に取り組んでいきます。生徒会長の松岡さんは「学校全体で市を盛り上げたい」と力強く話してくれました。



5/23 (土) ツツジ送迎バス運行

6/6(土)の両日に、八方ヶ原のツツジを楽しむ、送迎シャトルバスの運行が行われました。八方ヶ原では、例年5月から6月上旬にかけてさまざまなツツジが咲き多くの人々の目を楽しませてくれます。今年は、ツツジの咲く時期が1週間～10日前後早まったため、6日には急きょ予定を変更し、ツツジに加えて、県民の森に咲くコアジサイの群生を見に行きました。参加者からは、「高原山の花の種類はすごい」「また来年も楽しみにしている」などの声があがりました。



5/30 (土) 八方ヶ原に新名物

八方ヶ原で、ツツジの再生観察会が開催されました。この会は、下草狩りや樹に埋もれてしまったツツジに光を当てるよう伐採などをし、再生させる活動を行っている「新風たかはら」の皆さんにより行われたものです。谷野会長は「皆さんの協力があって続けられた。これからも新名所となるよう頑張っていきたい」と力強く話してくれました。また、当日は山の恵みを活かした「八宝鍋」が参加した皆さんに振る舞われるなど、矢板の新しい名物への期待の声が聞こえました。



5/25 (月) 魅力あるまちづくり

ココマチにおいて、たかはらさくら青年会議所の例会が行われました。この日は「魅力あるまちづくりを目指して～未来のために今の私ができること～」と題し、宇都宮大学陣内雄次教授による講演会と参加者によるワークショップが行われました。

講演では、先進地の事例を交えながら矢板が今置かれている状況やこれからの活動のヒントが話されました。ワークショップでは、各グループから今すぐできる具体的な策が発表されるなど熱い会になりました。



6/2 (火) 大間々の清掃ボランティア

大間々駐車場のレンゲツツジ群生地において、泉公民館の講座受講生による清掃活動が行われました。この活動は、普段の活動フィールドへの感謝と泉地区の魅力の一つである群生地を清掃することで、新たな宝を生み出そうという目的により開催されているものです。

この日は、例年より開花が早かったため、満開のレンゲツツジに囲まれた中での清掃活動となりました。参加者からは、「この宝を後世に伝えるために守ってきたい」という声が聞こえました。



5/29 (金) 交通安全自転車大会

市体育館で、塩谷町との共同で、小学生の「交通安全子供自転車矢板地区大会」が行われました。この大会では、自転車乗車時の安全確認や正しい乗り方等を学ぶことを目的として、安全協会主催により開催されているものです。交差点での止まり方や、曲がる際の手信号の確認のほか、細かいカーブの曲がり方や、デコボコ道での走行などの技術を確認する内容も行われ、参加した小学生は「この大会の経験を活かして、事故に遭わないよう気を付けたい」と話していました。



6/5 (金) ポピーを育てる心

川崎反町地内の城の湯温泉センター周辺の畑において、市身体障害者福祉会によるポピーの鑑賞会が開催されました。この畑は、身体障害者の機能回復や健康増進、社会貢献を目的に会員の皆さんが手入れを行っており、今年度で8年目を迎えます。

この日に集まった24人の皆さんは、きれいな花を愛でながら昼食会を行い「楽しみにしてくれている人がいる。来年も元気に咲かせよう」と話していました。

